

令和6年度事業報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

令和6年度の函館観光は、台湾便が2社体制になったことをはじめ、劇場版「名探偵コナン」の放映による聖地巡礼による来訪や過去最高数のクルーズ船寄港などにより観光客は順調に推移し、上期の観光入込客数は、前年同期比約10%増の約345万3千人と報告されております。下期についても、主要観光施設の利用状況は順調に推移していたことから、年間での観光入込客数に期待をしているところです。

このような中、当協会では、国内向け事業としては、東京、大阪でのプロモーションへの参加や教育旅行プロモーションを進めたこと、サウナブームが続いている事から、新たな取組として、函館やみなみ北海道の特徴的なサウナを紹介することで滞在型観光を目指す「サウナ情報発信事業」などに取組んで参りました。

また、閑散期の誘客として期待される「卒業旅行」については、宿泊施設や物販店、観光施設などの協力のもと、特別プランを造成し新たな誘客に結びついたところです。

インバウンド事業としては、関係機関とともに台湾へのトッププロモーションを行ったほか、協会独自に台湾旅行会社へのセールスコールも実施いたしました。

さらに、会員企業へのサービス向上として、会員向けセミナーを積極的に展開したほか、新たな試みとして「会員親睦ビアパーティー」を開催するなど活動的な事業も進めたところです。

一方、旅行業を活用した事業として着地型旅行商品の企画販売を進めており、「はこだてスペシャルチケット」の販売については、海外向けネット販売に力を注ぎ、過去最高の販売枚数を記録しました。さらに、貸自転車と温泉を組合わせた「函館西部地区ウェルネスパスポート」の販売や、新たな商品として護摩修行体験と朝食をセットにした「朝活観光」の開発を進めたところです。

さらに、コロナ禍を経て当協会のこれからのあり方を議論すべく「特別委員会」を設置し、令和5年より約1年間、9回に渡り議論が行われ、令和6年11月29日に「提言書」として答申され、国内客及び海外客のKPIが定められ、誘客ターゲットも示されたところです。

今後は、これら答申書に基づき、今まで以上に積極的な協会運営が行われるものと考えております。